

# 第8回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

◆日時 令和元年7月25日（木）午後2時00分～午後4時00分

◆会場 南あわじ市中央公民館 視聴覚室

◆出席者 委員：7名

松坂委員（委員長）、碓委員（副委員長）

伊吹委員、金沢委員、喜田委員、鈴木委員、谷池委員

事務局：4名

総務企画部付部長、ふるさと創生課長及びふるさと創生課担当2名

傍聴者：1名

## ◆会議の概要

1. 開 会 委員長及び事務局から開会の言葉

2. 協議事項

協議① 南あわじ市総合戦略の内部評価結果等について

協議② 地方創生交付金を充当した事業の評価検証について

○ 事務局より協議①～②について、内容説明等を行った。

## 【委員の主な質問・意見・評価】

### 協議①について

#### 南あわじを売り出そう地域が元気になる事業

- ・委員：事業の目標が大規模直売所の売上高となっている。事業に対しての実績と整合性が取れるのか。サクラマスメニューを出した店が増えた件数などを記載しなければ、目標にならないのでは。

⇒事務局：各事業の目標は平成27年に設定している。後年度の取組みが見えない中で設定したため、施策のKPIと事業の目標を同じもので設定した経緯がある。各年度の改訂時に、個々の目標を設定していくべきであったが、調整できていなかった。

#### 治水総合対策事業

- ・委員：先日の大雨でも被害の多いところがあった。水が溢れるところを把握して、対策していく事業なのか。

⇒事務局：全てが公共用地ではない。基本的には地元調整が必要なものとなっている。この事業については、国の予算の関係もある。低地対策の事業は予算がなかなかつかない状況だが、今年度は、湊排水機場の更新を考えている。国県の

予算を確保できるよう進めている。

### 各種審議会等女性委員登用率

- ・委員：C評価となっている。女性委員登用率が平成29年度に上昇して平成30年度に減少しているのは、根本的などころが進んでいないのでは。減少した理由は。また、どのくらい参画しないといけないのか。組織があるのか、そのうちの何パーセントが達成していない状況なのか。

⇒事務局：改善されない要因として、例えば自治会役員などで男性が多くなっている。

各種審議会の委員でも自治会のあて職が多くなっており、女性が増える要素がない。男女共同参画の審議会などで、意識的に女性を登用するような動きはあるが、公募枠の委員を募集する際も、女性を登用しようという募集の仕方をしていないため、どうしても男性ばかりになっている状況。

- ・委員：登用する側の意識の問題だとは思う。

⇒事務局：市役所内でも庁内ネットワークで周知はしているところだが、結果に結びついていない。

- ・委員：具体的な対策をもう少し考えることと、女性が活躍されていないわけではないので、もう少し見える化をされた方が女性側からは参画はしやすいのではと考える。

- ・委員：平成29年度から平成30年度に減少している。

- ・委員：自治会に人選を任すといったとき、積極的に女性にターゲットを絞ってやっているものもある。自治会は男性社会なので、できれば女性にという風に要件を入れていけば、探す方もやりやすいのでは。

- ・委員：市内203自治会で、女性の自治会長はほとんどいない。

- ・委員：地域でも婦人会がなくなっている。婦人会でしていたものを地区でやっている。男性の中でも、女性の方にもとの意識はある。

- ・委員：女性の方の仕事に関して、M字曲線がある。女性が就労しない時期であるが、段々と年齢が上がってきている。いい返事をもらえないということもある。

⇒事務局：南あわじ市はM字カーブではなく、横ばい。全国的には、昔は完全なM字カーブで、就職・結婚後、一旦仕事を辞めて、子供が大きくなれば上がるようになっていたが、幅が狭くなっている。

### 創業支援事業

- ・委員：創業セミナー等の受講者が74名となっており、多い印象を受けた。平成31年度に創業された方が出てきていると思うが、C評価は低いと考える。

⇒事務局：74名の内、10名が創業している。K P I の創業者数0人は創業した方の

うち、受講証を交付した数となっている。

- ・委員：受講証の交付はなぜされなかったのか？

⇒事務局：申請によるものとなっているので把握できていない。

- ・委員：自ら申請しなかったということか。優遇制度を知らなかったのか。

⇒事務局：制度の周知はしているが、申請がなかった。

- ・委員：創業時だけではなく、その後のケアも大事だと考えるので、コミュニケーションの場をなくさないように継続されるべきだと考える。

## 高齢者等元気活躍推進事業

- ・委員：おもいやりポイントの事業の状況は。

⇒事務局：年度末で160名程度の登録があった。現状で190名程度。実際に活動しているのは40名から50名程度となっている。高齢者施設や障害者施設、保育所、幼稚園など15か所くらいを選定して進めている。高齢者施設からは、施設側からも好評だった。傾聴ボランティアや配膳・下膳、草むしりなどをやってもらっている。施設としては、やってもらいたいことはたくさんあるものの、活動者が増えていない状況。最初の1時間は200ポイント、以降1時間ごとに100ポイントを付与していたが、あまりにも低額すぎるとのことだったが、活動する側はそれほど、ポイントを必要としない方が大半で、ボランティアでやっていると言っていた。施設側からももう少し出してもいいのではとの話があり、本年度からボランティアに近い活動を時間200ポイント、仕事の活動を時間400ポイントに分けて、活動をしていただいている。発行したポイントの内、20万1千ポイントは使われている状況。昨年10月から始まって試行期間としている。今年の10月に第2期の試行期間をスタートするつもりで、ボランティアの部分のほか、就労の部分にも携わっていきこうとしている。

- ・委員：ポイント制の宣伝がまだいきわたっていない。今年、21地区で市長との懇談会をやっている。その時にポイント制の話をするとう聞いている。

- ・委員：社協のやっている登録とは全く別のものか。

⇒事務局：別のもの。社協も900人くらい登録されているが、活動されている方は限定されている。純粹にボランティアだけやりたい人とちょっとした活動費をもらいたいという人がいる。縦分けはされている。

- ・委員：社協と連携すればボランティアの幅は増えると思う。

⇒事務局：今年4月から社協から職員を派遣いただいて、連携して進めている。

## 淡路瓦屋根工事補助金、淡路手延素麺生産数

- ・委員：淡路瓦の補助は、現状60件から徐々に件数が増えており、130件の目標値が高いだけで、頑張っている印象を受ける。手延素麺も生産数が増加しているというのは、評価をすべきではないか。なぜC評価なのか。  
⇒事務局：自己評価としては厳しいと考えている。指摘のとおり、当初の目標130件が高い印象を受ける。
- ・委員：ハウスメーカーや建築士協会へのPRはどのようにしているか。使ってもらうための取り組みを教えてほしい。  
⇒事務局：ハウスメーカーは基本的に淡路瓦を使っていない。施主が淡路瓦を注文すれば別だが、三州瓦に比べコストが高い。淡路瓦は地元の工務店が施工している家となっている。制度はすでに周知されているので、工務店から施主に補助制度の案内をしてもらっている状況。平成30年度で増えているのは、地元の工務店の請負件数が増えたということ。
- ・委員：補助金は南あわじ市内に限るのか。  
⇒事務局：市民の方に限る。ハウスメーカーに使ってもらうと、メーカーの保証が効かなくなる場合もある。  
⇒事務局：評価はBに変更させていただく。

## 協議②について

### ①ASAトライアングル（南あわじ・鳴門・東かがわ）を結ぶ、サイクリングツーリズム推進事業

- ・委員：陸路輸送56台で約200万円かかったということか。  
⇒事務局：トラック1台動かすことで、99,990円が必要で、1台乗せるだけでも経費が掛かる契約となっている。本年度からはこれを改めて、輪行バッグに入れて、バスで運んでいただく方向で調整している。
- ・委員：市内でご飯を食べてもらって、一食分出す方が交通量などの集計や利用実績も取りやすく、推進につながるのではないか。
- ・委員：サイクリストのための自販機で購入した金額の集計は取ることはできないのか。  
⇒事務局：サイクリストに係るデータとしては難しい。今年度は通行量調査を予定している。別件ではあるが、大鳴門橋下の自転車道整備にあたり、需要がどの程度あるのか把握ができたかと考えている。年に1回ではなく、季節ごとで測ることで調整している。
- ・委員：鳴門市側でも通行量調査をしているのか。

- ⇒事務局：調査をすることになっている。
- ・委員：グルメライドは淡路でしたものか。鳴門市と行き来するものか。
- ⇒事務局：鳴門市の小鳴門橋を渡った先の拠点施設をイベント会場として行った。コースは、鳴門市側で完結するコースと両市を巡るコースとしていた。
- ・委員：イベントへの参加者は陸路輸送を使っていないのか。
- ⇒事務局：イベントの中では、約700台が陸路輸送で渡っている。多くの方がイベントで海峡を渡る経験をしているが、プライベートで使う形にはなっていない。陸路輸送の56台は別途予約を受けてやっていたもの。
- ⇒事務局：最初は週末のみの朝昼晩の便であったが、ニーズが合わなかった。問題意識は持っており、今年度からバス輸送に変更し、より便数が増えるように対応している。利用者の状況を掴んでいきたいと考えている。
- ・委員：グルメライドを春と秋にする方がよいのではないか。費用対効果の面で、イベント費用と陸路輸送の費用が同程度となっている。
- ⇒事務局：陸路輸送をしているのは、海峡を渡ってほしいという考えがある。渡ってもらうには、何をすれば効果的なのかを探っているところで、初期費用がかかってしまうのは仕方がないと思うが、今後もこのまま続けるのは問題があると考えており、効果検証を経て直していく。
- ・委員：交流がメインということか。
- ⇒事務局：交流が目的。淡路島と鳴門市で行き来をする。そこで価値を見出していく考えを持っている。
- ⇒事務局：秋のイベントとして、淡路島でアワイチを行っている関係で、グルメライドは3月となっている。
- ・委員：明石海峡大橋はどのように渡っているのか。
- ⇒事務局：船で渡っている。車に乗せてきて、東浦を起点に自転車に乗る人も多い。- ・委員：自転車を乗せて、鳴門海峡を渡った人に補助を出す方がいいのでは。

⇒事務局：最も良いのは、高速バスにそのまま乗せてもらえるという方法。公共交通に乗せてもらえば楽に行けるが、乗せる台数が少ない。

  - ・委員：評価がCとなっているが、D評価ではないか。

⇒事務局：見直しは行っている。

  - ・委員：将来的なことを考えてやっていると思うが、大鳴門橋の自転車道の話もあったように、橋を自転車で渡れるようにならなければ、難しい事業ではないか。

⇒事務局：現状では補助金頼りとなっており、問題があると認識している。

  - ・委員：淡路で走りたければ、淡路に車で来る。四国で走りたければ四国に車で行く。

⇒事務局：四国に回れば、「しまなみ」がある。瀬戸内海一周というと、どの程度のニーズがあるかは把握できていない。

- ・委員：淡路に来るサイクリストは島外の人が多いのか。島外から淡路を通して四国に行く人がどの程度いるのか。香川から淡路に来る人をターゲットにした方がよいのでは。

⇒事務局：鳴門から淡路に来る便もあったが、比較すると、鳴門から来る人の方が多かった。

⇒事務局：D評価に変更する。

### ②南あわじ市三力（魅力・味力・見力）発信事業（商工観光課実施分）

- ・委員：ぐるなびのどの部分に事業費がかかっているのか。

⇒事務局：協議会からぐるなびに委託している。事業費は、イノブタや3年とらふぐなど、首都圏や阪神間の飲食店へ出荷する際の送料部分を無料化する経費が上がっている。そのほか、期間限定でフェアを実施していただき、そのフェアで協力店舗として特別メニューを出した店舗に対して、協力店舗のネームプレートを店舗に掲げてもらう経費がかかっている。交付金がある時点では送料の無料化をしているが、今後、自走していく段階では、首都圏の飲食店・地元の生産者で送料を持っていただく。この前提で、中間事業者の選定を行っている。

- ・委員：自走に向けて、目標を持たれているので大丈夫だと考えるが、生産者と消費者をつなげる面はもう少し促進しなければ、自走というのは非常に難しいと考える。事業費が多くかかっている印象がある。

- ・委員：本年度の事業費は前年度に比べて10分の1になっている。現段階で自走できるようになっているから、事業費を削減しているのか。

⇒事務局：平成28年度から平成30年度で国庫補助事業が終了している。平成31年度からは特定財源なしで、自走していくための業者選定を行うための費用として、30万円を計上している状況。飲食店もすでに南あわじ市の食材を入れてもらっているところもある。生産者も直接出荷できるという経験を積んでいる。ノウハウは蓄積できているので、いかに継続させていくかが課題と考えている。

### ③南あわじ市三力（魅力・味力・見力）発信事業（広報情報課実施分）

- ・委員：魅力発信店舗の認知度の向上が目標に上がっているが、事業目的がSNSを通じた交流人口の増加となっている。施策目標とつながってこない。インスタグラムなどのSNSを使っただけの登録数の増加は交流人口の増加としてのKPIで正しいと考えるが、魅力発信店舗による認知度の向上とどうつながるのか。

⇒事務局：総合戦略上の位置づけによるもの。魅力発信店舗の認知度の向上に係る事業を三力発信事業としているが、商工観光課実施分と広報情報課実施分に細分化して資料を分けたため、分かりにくくなっている。

- ・委員：K P Iはコンテストの参加者数ではなく、SNSでの登録者数による交流人口の増加が目的に合っていると考える。

⇒事務局：指摘のとおり、SNSの登録者数とコンテストの参加者数の両方設定しておく方がよいと考える。

- ・委員：投稿数は平成29年度から4倍に増えている。やや遅れなのかと考える。更なるコンテンツの充実を図るとあるが、どのようにする考えなのか。

⇒事務局：ツイッターの更新で言えば、当市のアカウントは、市ホームページを更新した際に機械的に流している。意欲的なものとはなっていない。インスタグラムを見ると、ハッシュタグ南あわじなど、観光客の方は相当、投稿している。市のSNSの情報発信ももっと人に価値観が伝わるような伝え方をする必要があるのでと考えている。もっと情報発信をしていくべきだと考えている。

- ・委員：情報を配信して、見てもらうために費用を払っていく。そういうものを事業費に回していくことで、もっと活発になるのではないかと考える。それほど高くないと考えるので、これから継続してやっていけるのではないか。

### 3. その他

次回総合戦略検証委員会日程について

- 事務局より、次回の委員会日程について説明を行った。

### 4. 閉 会

- 閉会にあたり、碓副会長よりごあいさつをいただいた。

以上